

インストウルメンタル  
アコースティック・デュオ

今年、小川珈琲のテレビCMに  
楽曲を提供していただいた、  
インストウルメンタル・アコースティック・デュオ、  
ジュスカ・グランペール。  
結成秘話や二人の楽曲スタイルについて、  
お話を伺いました。

ギタリスト × ヴァイオリニスト

Jusqu'à Grand-Père

ジュスカ・グランペール

# 10本の弦で世界とセッションする ジュスカ・サウンドに魅せられて

ジュスカ・グランペールの結成

## 経歴も見た目も全く違う二人の 音と息がぴたりと重なって

ときに情熱的、ときに優美なサウンドで大人たちを魅了するジュスカ・グランペールは、ギタリストの高井博章さんとヴァイオリニストのひろせまことさんによる、アコースティック・デュオ。関西を拠点に活動する彼らの楽曲は、ジブシージャズ、クラシック、邦楽といった世界中の音楽を背景に、オリジナルなスタイルを生み出してきました。

そのジャンルに捉われない作風は、聞いてきたすべての音から生み出されたと言ってお二人。もともとロックやジャズをやっていた高井さんの音楽との出会いは、中学生の頃に聞いたビートルズ。「雑誌『ミュージックライフ』の中の煌びやかな世界に憧れて、ミュージシャンになるうって思っただけです。始まりはビートルズだけど、実家が神社なので、幼い頃から自然に触れてきた雅楽の影響もあったと思います。」と高井さん。一方、ひろせさんは、音大でクラシックを学んだヴァイオリニスト。「山登りが好きで、気持ちよかった山行の様子を思い浮かべたりすると曲ができたりする。だから、音はもちろん、見るものも全部が僕たちの音楽に影響しているんだと思います。」

そんな二人の出会いは20代後半。当時、ヨーロッパを旅した高井さんは、スペインの公園で気持ちよく演奏するギタリストとヴァイオリニストの姿を見て、帰



国後すぐにヴァイオリニストを探し始めます。それから3年の月日が経ち、ついに二人が出会ったのは高井さんのライブ会場でした。知人づてに高井さんの話を聞き、ライブを見に行ったひろせさん。「実はすぐに断ろうって思いました。だって、モヒカン頭に赤いエレキで、ハードなジャズを弾いてたんです。これは勘違いしてはるわって(笑)。でも、楽屋に挨拶をしに行くと、ライブのテンションを引きずった強引な感じでリハのスケジュールを押しさえられちゃって。」

「そのリハで最初に合わせたのは、クラシックなブルース。不安な気持ちとは裏腹に、一緒に弾き出したら面白くて。最後に高井が出してきたのが、ジブシー風って書いてある楽譜でした。その曲を弾いたときにバチッと息も音も合って、それが僕たちの代表曲『ジブシーダンス』になりました。」

## セッションで生まれる 二人だからこそその自由な音

「僕はラテン系で暑苦しい系。ひろせは大人しそうで賢そうで、いかにも音大卒って感じ。」と高井さん。さらにひろせさんが続けます。「でも、実は僕の方が気が短い。高井はこう見えてお酒が弱いし、僕は酒飲み。見た目と中身が全然違うんです。」そんな二人が出会ってからはしばらくの間は、ライブの有無を問わず、暇さえあればセッションする日が続ききました。

「音楽って不思議なもので、違う人生を歩んできて、セッションすると昔から知っている友人のような気になる。言葉もいらなし、国境も関係ない。」と高井さん。二人で曲を作る際には、セッションしながら、お互いにアイデアを出し合い曲にしています。「20年も一緒にやっていると二人の血が混ざってきて、高井だったらこんな風を書くかなって感じで曲を書くこともできます。性格があまりにも違いすぎて、喧嘩にもならないけど、寄り添っている。夫婦が似てくるのに近いのかな。」とひろせさん。ジュスカ・グランパールは、クレモンティーヌや大竹しのぶといった



数々のアーティストとセッションしてきました。どのアーティストとのセッションでも、心が通い合う瞬間があったといえます。

二人のセッションを体感できるのは、やはりライブ会場。地下のライブハウスはあまり好きではないという二人が選ぶ会場は、屋外から神社仏閣までさまざまです。「それぞれの場所特有の空気の中で弾くこともひとつのセッションだと思えます。そこできか出せない音もあると思うし、それが楽しみです。」とひろせさんは語ります。「ジュスカって、セッション性の高い音楽なんだろうね。その場所、その時によって明らかにサウンドが変わるのは、デュオっていう自由な形態のお陰だと思う。」と高井さん。

小川珈琲へのCM楽曲提供

## 『風人雷人』の制作秘話と 二人のコーヒーストーリー

今年放送された小川珈琲のテレビCMに、ジュスカ・グランパールの『風人雷人』を起用させていただきました。2016年に作られたこの曲の当初のタイトルは「新風狂乱」。物事を始めるときの期待感や高揚感、神様ではなく自らの力で切り拓いていくイメージで作曲したという高井さん。「書いた曲を見せたと

きに、ひろせが和太鼓を入れようって言い出したのには驚きました。和太鼓奏者のKogakusyu 翔の吉村靖弘氏と合わせてみたら、おお、いったなあって感じ。これはもう『風人雷人』しかないなと。」

「実際のCMは、音楽に絵を付けたみたいになっちゃってましたね。これから始めるぞっていうわくわく感が伝わってきました。」と語るひろせさんは、大のコーヒー好き。「今は嗜好品としてたまにじっくり楽しむくらいだけど、昔はサイフォンからフレンチプレスまであらゆる器具を揃えていました。」「そうそう、ひろせの家に初めて行ったときに、コーヒーを出してくれて、その陶器のカップが手づくりだったのを思い出すな。そのときにひろせの深みみたいなものを感じたんだよね。それで、ひろせが陶芸を習っていた窯元で初ライブ。」と、コーヒーにまつわる思い出を語ってくれた高井さん。これからもギターとヴァイオリン10本の弦で奏でられるサウンドの可能性を模索していきたいと語るお二人の楽曲には、日々のあらゆる場面に寄り添ってくれる不思議な心地よさがあります。小川珈琲直営店の店内でも流れているので、ぜひジュスカサウンドとともに素敵なコーヒータイムをお過ごしください。

### ジュスカ・グランパール コンサート情報

2018年

11月25日(日) 宮城・仙台 ルフラン  
11月29日(木) 大阪・梅田 URGE  
12月1日(土) 京都・岡崎 NAM HALL  
12月23日(日) 東京・東京国立博物館



詳しくは、ジュスカ・グランパール  
オフィシャル ホームページをご覧ください。

<https://www.jusqua.com>